

# 平成30年10月「月報」

## 1 はじめに

今年、1月の草津白根山噴火に始まり福井県豪雪、大阪北部地震、7月豪雨、台風21号豪風雨、北海道胆振東部地震と予測のつかない大災害に見舞われ、自衛隊はその都度災害派遣による人命救助活動や被災者の生活支援等で国民に安心感を与えています。その災害派遣の現場では、現職自衛官の活躍はもとより即応予備自衛官や予備自衛官も大変活躍している事をご紹介します。

防衛省の※PFI 船舶1号「ナッチャン World」、同2号「はくおう」は、通常は主として「自衛隊の訓練での輸送」、「災害派遣等の緊急輸送」に使用されるほか、防衛出動時には自衛隊の輸送に運用される船舶です。ナッチャン World の乗組員19名の内、船長以下16名が元自衛官であり15名が予備自衛官に任命されています。北海道胆振東部地震では、防衛省の指示から15時間後の9月6日2240分には函館港を出港、7日仙台塩釜港にて自衛隊の車両や発電機等を搭載し8日夕苫小牧港へ輸送し、自衛隊の迅速な派遣活動に貢献しました。乗組員の国を護る意識は高く、現職自衛官にも負けない頑張りです。

また、はくおうは、13日から17日の間、被災者のための入浴・宿泊支援を実施しました。

※PFI：民間企業の能力を公共事業に活用する手法の1つです。



ナッチャン World



はくおう

## 2 防衛省・自衛隊の活動

### (1) 北海道胆振東部地震への災害派遣

平成30年9月6日（木）0307頃、北海道胆振地方中東部を震源とする地震（M6.7）が発生しました。自衛隊は直ちに災害派遣出動し、最大時約25,000人、艦船9隻、航空機46機をもって人命救助活動、道路啓開、給水・入浴・給食支援等を行いました。



人命救助（陸）



連絡幹部の派遣（海）



給食支援（空）

### (2) 予備自衛官等の雇用企業協力確保給付金制度の施行

防衛省は、「予備自衛官又は即応予備自衛官が、防衛出動・国民保護等派遣、災害派遣等に召集されたことで、平素の勤務を離れざるを得なくなった場合に、その職務に対する理解と協力を確保するための給付金を雇用主に支給する」制度を新設し、10月1日

から施行することになりました。

### 【給付イメージ】

- ① 防衛出動、国民保護等派遣、災害派遣等のため招集に応じ ② 招集中（訓練招集含む。）の負傷又は疾病により療養のため、平素の勤務先を離れた場合



### 【給付額】

$$\left[ \begin{array}{l} \text{予備自衛官等である者が使用者(※)の事業に} \\ \text{従事することができなかった日数} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{その間における当該事業の継続に伴う負担を考慮し} \\ \text{政令で定める額(日額34,000円)} \end{array} \right]$$

※ 政令で国、地方公共団体及びこれらに準ずる者は除く。

## 3 家族会の活動

### (1) 北海道胆振東部地震時の自衛隊家族会の対応

ア 本部は、地震発生後直ちに陸幕家族支援班と調整し、北海道における隊員家族の安否確認への支援依頼に応ずる態勢を準備しましたが、陸幕及び部隊からの支援依頼はありませんでした。

残念ながら2名の隊員ご家族が被災（死亡）されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

また、道内の各家族会では、会員の安否確認を行い異常はありませんでした。

イ 今回の地震では、当初北海道全戸が停電（ブラックアウト）し、会員の安否確認のための通信連絡手段が途絶されて安否確認は困難を極めました。停電時の通信連絡手段の確保について、携帯電話の予備バッテリーの準備や車からの充電対策等の重要性を教訓として得ました。

### (2) 地域協議会

#### ア 北海道地域協議会の実施

8月30日（木）、平成30年度の北海道地域協議会（ブロック会議及び定期総会並びに懇親会）が札幌市にて行われ、本部から伊藤会長及び深津地域担当委員が出席しました。ブロック会議では、「募集協力に関する地本支援の在り方」と「各県における家族会活性化の現状と今後の施策」の2つのテーマについて、各地域の家族会の現状や実施中或いは実施予定の施策等活発な意見交換を行い、問題認識の共有ができました。特に家族会のみならず、北部方面総監部や各地本の関係者並びに隊友会との認識の共有を図れたのは有意義でした。



ブロック会議の状況（自衛隊も参加）



懇親会での意見交換

### イ 北関東地域協議会の実施

9月9日～10日の間、平成30年度の北関東地域協議会の定期総会、研究討議、防衛講話及び懇親会が日光市鬼怒川観光ホテルにて行われ、本部からは小林地域担当委員が出席しました。研究討議では「募集協力に関する地本支援の在り方」について、会員への募集適齢者情報の提供を促進し常に地本の地区担当広報官と密接に連携し活動することの重要性、募集ポスター掲示場所の拡大、募集案内配布先の拡大等の施策を意見交換しました。また「各県における家族会活性化の現状と今後の施策」については、地区会未設定地区の解消や市町村合併に伴う地区会地域割りの修正等の体制整備の必要性について意見交換しました。

防衛講話では、元東部方面総監の渡辺悦和講師が、「日本有事、国はどうする、あなたはどうする。」と題し、主として中国の脅威について熱弁を振るわれ、多くの会員が聴講しました。

翌10日（月）は、日光東照宮の史跡研修を行い、有意義な協議会を終了しました。



総会の状況（ビブス着用の会員）



渡辺講師による防衛講話

### (3) 出雲市と出雲駐屯地の協定締結を島根県自衛隊家族会が仲介

8月27日、出雲市役所において「災害派遣隊員留守家族の安否確認などを支援する協定締結式」が長岡出雲市長と中谷出雲駐屯地司令の間で行われました。これは小汀島根県家族会会長以下が、出雲市長や防災安全部長等に働きかけ実現したもので、当日は

地元 NHK でも放映され、ニュースや新聞を見た家族会員から、「行政が支援してくれることは嬉しい。感動した」との意見が多く寄せられました。



協定締結式



長岡出雲市長の挨拶